

課題番号4

課題名	<b>重点課題3 農業ビジネスを加速させる技術開発・普及・農地利用の促進</b> 泉州水なすにおける複合環境制御技術導入に向けた現地実証と栽培指標の作成	
対象： JAいずみの水茄子生産出荷組合35名、 JA大阪泉州水茄子生産出荷部会181名	計画期間：H29～33	事務所名：泉州農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果（達成率）
水なすの複合環境制御技術等の実証普及	①複合環境制御技術の実証 ②複合環境制御技術の優位性明確化	①水なす生育モデル指標作成：1作分データ収集・改善点抽出（作成中） ②R3技術導入農家数：2月開催予定

総合評価（コメント）
<p><b>A：6名 B：1名</b></p> <p>■大阪府下を代表する特産物・水なすの収量・品質の向上に向けた取組であり、現地実証の成果とその普及が期待される。</p> <p>■水ナス生産は、高度な生産技術が要求されるため、技術継承を含めて、得られたデータを活用した成功事例のマニュアル化が普及にとって重要。</p> <p>■実証に入る前の基本的数値の把握として、管轄地域の10a当たりのトップ平均収量、等級比率、環境境制御あり/なしの平均指標、収量と等級率の現状数値とそのストレッチ目標数値等を把握するとともに、具体的な見える化比較、伝承方法改善の具体策、データ分析と改善プラン策定伴奏支援等の整備、実証施策の生産者投資に対する導入成果の追求、実施内容の適正化設計の深掘りに向けて、他地域の事例や論文をもっと勉強してください。</p> <p>■課題抽出、目標設定、活動内容は評価できるが、経過途中での目標達成に対する新規課題が出ているようなので、修正して遂行を続けて欲しい。新技術の導入により生育が促進されることによって植物体の水分や養分の要求度が変化するのではないかと思うので、施肥設計の修正検討や水分コントロールも視野に入れてECやPF値の測定と評価も有効ではないか。</p> <p>■泉州水なすの栽培農家数増・農地増大のためにつながる取組みであり、地域育成の観点から効果は大きい。今後のフィードバックにあたっては、費用対効果の観点も取り入れることが重要。</p> <p>■やはりスマート農業導入で気になるのはコスト。栽培指標作成にあたって、実際に2農家で環境制御技術を条件を変えて試験し、費用対効果を丁寧に検証している点は良い。実際に導入を検討する農家の安心感につながる。</p> <p>■環境制御技術(CO2)に対しては少し疑問がある。</p>

評価 A:おおむね適切である。 B:部分的に検討が必要である。 C:見直しが必要である。

普及指導計画への反映状況等
<p>■水なす生産者をハウス加温・無加温・露地の作型別に分類し、今年度までに巡回調査で把握した中から、分類ごとの目標収量を設定し、目標収量に届かない生産者の栽培技術改善等を支援していく。</p> <p>■加温促成栽培で複合環境制御技術を導入した生産者の反収が、20t/10aに達すると予想されることから、この生産者を目標として、当該技術の効果が高い同作型で栽培技術の改善や設備投資により収量向上を目指す農業者を重点指導対象として、個別の課題解決を支援する。</p> <p>■また、JA等の関係機関も含めた組織化を図り、地域のモデルを確立する。</p> <p>■R3年度は、気温、湿度、CO2濃度等による指標・マニュアル作成に取り組み、ECやpF値のモニタリングについては、R4年度以降の導入を検討する。</p>